

※実務者研修修了者の体験談※

50歳代での学び

特別養護老人ホーム 丸子の里
増潤 昭 (平成25年入職)



平成26年秋から平成27年の春にかけて、実務者研修を受講しました。すでに50歳代ということもあり、しばらく勉強から遠ざかっていましたので、最初にテキストを見た時は「これだけ多くのことについて、仕事をしながら学べるのか」と不安もありました。しかし、平成29年1月の介護福祉士の国家試験に必要な研修なのだから、と頭を切り替え、短期集中型で知識の習得に励みました。

帰宅して夕食後テキストを読み、指定されたインターネットサイトで確認の試験を受ける。これを繰り返し、約6カ月で修了できました。覚えにくいところはノートに書き出すようにしました。日常業務で行っていてすでに経験している分野については、不安はありませんが、医療的ケアはこれから実践していく分野であり、看護師の指導を受けながら、冷静に的確な対応ができるようになりたいと考えています。

時代の流れとともに介護職員に求められる知識、技術も変わっていくと思います。新しい知識や技術を取得するためのアンテナを高くして、ご利用者のニーズに合った介護ができるように、日々努力していきたいと考えています。

た職員の在宅介護事業所への異動、地域への還元をすすめています。働き方は職員それぞれではありますが、介護福祉士取得は事業所や地域でリーダーシップをとることができる職員養成への

の第一歩です。そのためにも介護福祉士国家試験の受験の条件となる実務者研修を受講することは大変重要です。少子高齢社会での人材不足、介護報酬削減による収入減少など、厳し

い状況は続きますが、地域包括ケアシステムにおいて中核的に活躍できる人材を育てるために、今後も資格取得支援は続けていきます。

※実務者研修修了者の体験談※

パートから常勤に

小規模多機能ホーム みのり
渥美 志乃 (平成25年入職)



平成25年にデイサービス担当として、無資格・未経験で入職しました。最初の頃は介護用語もわからず、先輩の指示通りに動くばかりでしたが、1年半が過ぎた頃、実務者研修受講の話をしていただきました。

研修内容は6カ月間の通信教育と課題レポートの提出、7日間のスクーリング受講でした。スクーリングに入ると医療的ケアなど実技を中心に授業が行われ、質問できる環境や受講生同士のコミュニケーションは勉強をすすめる励みになりました。また、介護の根拠や知識・技術を得ることで、日々の業務を行っていくうえでの自信につながりました。

平成27年に小規模多機能ホームへと異動し、あわせてパートから常勤になることができました。戸惑うことも多々ありますが、目の前の課題に取り組みながら、デイサービスにはない利用者宅への訪問業務や夜間業務を行いながら、平成29年には介護福祉士国家資格を取得するために、たくさんの経験を積みよう努めています。

実践レポート
働きながら学ぶための支援〈1〉

全額法人負担で
実務者研修の受講を促進

成岡 桂子

静岡市・社会福祉法人 静和会 特別養護老人ホーム 丸子の里 施設長

法人による資格取得支援

社会福祉法人 静和会 丸子の里グループでは、平成元年の法人開設当初より職員に対して手厚い資格取得支援を行ってきました。「縁あって丸子の里に入職し、まじめに働く職員に経済的に自立につながる資格の取得支援をすべし」というのが創設時からの人材育成方針です。以降、介護福祉士や介護支援専門員試験の受験料や研修費、社会福祉士通信教育費用も全額法人負担で勤務扱いにしています。現在静岡市内にある22事業所の管理者の半数は無資格・未経験からのスタートでした。

職員個人にとっては国家資格を取得すれば給与や雇用形態が変わり、やりがい感も上昇します。法人にとっては常に有資格者割合が高いため、介護保険制度が改正されるたびに必要さまざまな加算取得に苦勞することはありません。何よりご利用者にとって有資格者が介護することは望ましいことで

介護福祉士資格取得のために

実務者研修修了者は全員、介護福祉士資格取得にチャレンジします。デイサービスやホームヘルプの事業所は非常勤職員が多いため、常勤職員への転換の条件として介護福祉士資格所持を必須としています。一方、特別養護老人ホームに働く職員は、実務者研修修了後には医療的ケアの演習を自施設で行い、喀痰吸引などの医療ケアが行えるようになります。

丸子の里では、2025年に向けて在宅介護の支援体制整備に取り組んでおり、特養で医療的ケアや看取りケア、認知症ケアなど高い介護力を身につけ